

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	一般社団法人わらび座	
施設名	わらび劇場	
内定額	13,336	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		363	363
年間事業本数（※1）	主催事業	24	27
	公演事業	6	9
	（内、本助成対象事業本数）	5	5
	人材養成事業	1	3
	（内、本助成対象事業本数）		
	普及啓発事業	7	7
	（内、本助成対象事業本数）		1
	その他 内容： 外部劇場での主催、行政等の委託事業	10	8
貸館日数	ホールごとの貸館日数	1	0
	ホール名：記入してください 座席数：420	1	0
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	34,205	34,849
	公演事業	24,038	23,138
	人材養成事業	400	540
	普及啓発事業	9,767	11,171
	その他 内容：		
	貸館事業入場者・参加者数		
	その他 内容： 記入してください		
	計	34,205	34,849
施設の利用率(%)		100.0%	100.0%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合(※4)	その他
令和5年度	主催公演(※1)	6	186	24,038	56.0%	4			2			
	共催・提携公演(※2)											
	貸館公演(※3)											
	計	6	186	24,038								
令和6年度	主催公演(※1)	8	217	22,538	64.0%	6			2			
	共催・提携公演(※2)											
	貸館公演(※3)											
	計	8	217	22,538								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

- ・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	ミュージカル「青春(アオハル)するべ！～由利高校民謡部ストーリー～」夏の特別演出公演	目標 値	840	77.8%	観客の満足度	アンケート上「本日の公演はいかがでしたか。」の回答結果が、「とてもよい＋よかった」99%、「とても良かった」の回答90%の到達。 (設問の有回答数に対する割合で算出する。)	「とてもよい＋よかった」100%、 「とても良かった」の回答97%	満足度は「とてもよい＋よかった」が100%を占め、「とてもよかった」が97%と高水準の評価を獲得できた。(エビデンス資料1)スペシャルカーテンコールで秋田・岩手の郷土芸能部が5団体各日に出演し非常に好評を得た。また、「2024 All Aboutミュージカル・アワード」にてアンサンブル賞を受賞した。		
		実績 値	664	61.5%						
公-02	祭りステージ 「This is Akita！」冬の1か月公演	目標 値	1,330	58.3%	観客の満足度	アンケート上「本日の公演はいかがでしたか。」の回答結果が、「とてもよい＋よかった」99%、「とても良かった」の回答90%の到達。 (設問の有回答数に対する割合で算出する。)	「とてもよい＋よかった」99%、「とても良かった」の回答88%	「とてもよい＋よかった」は99%で好評だった。「初めてみた」の回答が44%と他事業に比べずば抜けて多く40代以下が48%を占め、台湾モニターツアーが4回29人訪れるなど、若年層やインバウンド等の新規顧客の獲得の他、9団体10回地元手踊り団体が出演するなど総合的に成果があった。(エビデンス資料1)		
		実績 値	1,294	65.4%						
公-03	わらび劇場開場50年記念「わらび座お正月特別公演」	目標 値	900	71.4%	観客の満足度	アンケート上「本日の公演はいかがでしたか。」の回答結果が、「とてもよい＋よかった」99%、「とても良かった」の回答90%の到達。 (設問の有回答数に対する割合で算出する。)	「とてもよい＋よかった」99%、「とても良かった」の回答90%	目標通りのお客様満足度のアンケート結果を得た。世代が各10代未満～70代までの各世代5%以上と多様性があったこと、新規来場者の比率が昨年11%から19%へ増加したことなどは評価できる。(エビデンス資料1)		
		実績 値	864	68.6%						
公-04	「秋田ですが、何か。」(仮題)リーディング公演	目標 値	1,930	59.6%	観客の満足度	アンケート上「本日の公演はいかがでしたか。」の回答結果が、「とてもよい＋よかった」99%、「とても良かった」の回答90%の到達。 (設問の有回答数に対する割合で算出する。)	「とてもよい＋よかった」100%、 「とても良かった」の回答79%	「とてもよい＋よかった」は100%で目標を達成したが、「とてもよかった」は79%と目標に及ばなかった。これはリーディングという新たな創作過程の公開という性質からくものと考えられる。秋田県民アンケートへは781人の回答があり、創作への参加という点では評価できる。(エビデンス資料1)		
		実績 値	1,727	53.3%						
公-05	わらび劇場開場50年記念 ミュージカル「ゴホン！といえば」特別アンコール上演	目標 値	350	83.3%	観客の満足度	アンケート上「本日の公演はいかがでしたか。」の回答結果が、「とてもよい＋よかった」99%、「とても良かった」の回答90%の到達。 (設問の有回答数に対する割合で算出する。)	「とてもよい＋よかった」100%、 「とても良かった」の回答95%	「とてもよい＋よかった」100%、「とても良かった」の回答95%と非常に高い評価を得た一方で、来場者数は目標に及ばなかった。(エビデンス資料1)終演後には演出・脚本のマキノゾミさんによるトークショーも開催するなど創造拠点ならではの体験を提供できた。		
		実績 値	293	71.5%						
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								

3. 自己評価

評価項目①：創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	・国内の芸能団体との連携数、招聘数(公演事業の取組の過程で連携・招聘ができた団体数をカウントする) ・レジデント・カンパニーの活動の評価(専門家、モニター、メディアからの評価) ・新規来場者数の割合(アンケート集計)	・東北エリアを中心とする日本国内の芸能団体との連携、招聘数 10団体以上 ・専門家を含むモニターからのポジティブな評価を得る。記事、メディア露出数7記事以上 ・支援対象事業において新規来場数の割合が25%以上	・東北エリアを中心とする日本国内の芸能団体との連携、招聘数 16団体 ・専門家を含むモニターからのポジティブな評価を得る。記事、メディア露出数7記事以上 ・支援対象事業において新規来場数の割合が25%(エビデンス資料3)	・芸能団体との連携では、公-01においては、民謡部をモチーフとした作品という接点より、秋田県内・岩手県内の郷土芸能部を招聘した。8月5日 豊成小学校(秋田県大仙市)、8月6日 伊保内高校郷土芸能部(岩手県九戸郡九戸村)、8月10日 大曲農業高校郷土芸能部(秋田県大仙市)、8月11日 北上翔南高校鬼剣舞部(岩手県北上市)、8月17日 角館高校飾山囃子部(秋田県仙北市)が披露した。公-02においては、作品中にて地元手踊り団体9団体が10公演に出演した。公-03においては、岩手県のさんさ踊り清流・青森県の千葉勝弘・野呂淳一氏より手踊りの教示を受けた。いずれも秋田の文化資源を生かした創造を掲げる劇場として、レジデントカンパニーの演技者の技能の向上、地元芸能団体や青少年の芸能を受け継ぐ姿に感動を生む、有意義な取り組みとなった。 ・支援対象事業において19本の記事掲載、メディア露出があり目標を達成した。(エビデンス資料2)特に秋田県出身の内館牧子氏脚本の公-04については、テレビ新聞Webメディアなど7本の掲載があり注目度の高さが伺えた。さらに、公-01は「2024 All Aboutミュージカル・アワード」にてアンサンブル賞を受賞した。授賞理由には「個々のスキルのみならず、ステージ上にみながる“互いへの信頼感”が魅力です。」との評価を得た。(出典:All About MUSICAL AWARDS 2024 https://allabout.co.jp/gm/gc/511741/#8) ・支援対象事業において新規来場者数は25%となり、目標を達成することができた。公-02では特に「初めてみた」の回答が44%と他事業に比べずば抜けて多く、40代以下が約50%を占め、台湾モニターツアーが4回29人訪れるなど、若年層やインバウンド等の新規顧客の獲得に寄与した。		
人材養成事業						
普及啓発事業	・芸能団体との連携数、招聘数(公演事業の取組の過程で連携・招聘ができた団体数をカウントする)	・秋田県内の芸能団体との連携、招聘数 5団体以上		・白岩ささら、長野ささら、上米町一丁目竿燈会、西馬音内盆踊り保存会、かくのだて飾山囃子保存会(藤美会)、東今泉八幡太鼓、岩屋堂高校鹿踊部の秋田県内の7団体を招聘し芸能を披露していただくことができ、目標を達成できた。春、夏、秋と季節ごとの伝承行事やキャンプファイヤーなどのイベントや劇場公演との連携により、事業への来場を目的としない広い層にも波及でき、民俗芸能に触れていただく機会となった。特に遠方からの来場者も一定数ある劇場としては、県外観光客にとって地元芸能に触れる機会として有意義な機会となった。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

●公-01は実在の50年以上の歴史を誇る、由利高校民謡部を題材とし、緻密な取材を元にミュージカル化した作品で、今回秋田県内の郷土芸能部の日替わり特別出演をとりいれ、キャストを1名増員した、新演出で再演を行った。今回由利高校民謡部出身の2人の俳優をキャスティングし、俳優陣による、出身地由利本荘市を中心にプロモーションも兼ねたにアウトリーチを行った。また、地元郷土芸能部や総合文化祭での受賞実績のある県外の郷土芸能部の特別出演を行うことでより発信力の強化を行った。あきた芸術劇場での出張公演も実現し現役の由利高校民謡部とのコラボも実現した。秋田の民謡や郷土芸能が地域の宝であるということを若者たちが受け継ぐ姿を見て感じられる取り組みとなった。

●公-02はホテルの一角をシアターにして、太鼓と提灯で参加できる点が特徴である。お客様の感想には「ミルハスでの参加型ステージよりも全席全員参加型ということ。すばらしかったです。子供達が生き生きと楽しそうで、とても良かったです。色々厳しいこともあると思いますが、秋田の文化の風を絶やすことないよう、頑張ってください。応援しています。」「(60代秋田県)など、その空間ならではの魅力、秋田の文化資源の維持継承への評価をいただけた。

●公-03のお正月特別公演の感想にとても心打たれるものがありました。「毎年妻と観劇しておりました。ところが妻が病死してしまい、一人で観に来ました。レオを見て生きようと思います。」「(公-03 80代 男性)。地域にあり続け、お正月に1年に1度劇場に行くことを恒例として生活の中にあり続けられたこと、大切な人とのかけがえのない時間になっていたのだと感じた。作品の力が人の心を救うかもしれないという可能性を信じて地域の恒例事業として取り組み続けたい。

●公-04の1・2月公演は秋田県が取り組んだ「秋田県冬の大型観光キャンペーン」の秋田冬アソビ割を活用し体験コンテンツとして販売促進に取り組んだ。秋田県冬の大型観光キャンペーンの冬アソビ割対象事業と連動した誘客を行うことができた。こたつ型のがっこちゃっこ体験付きの観劇体験は秋田らしいおもてなしとして人気を得た。知名度があり県民の注目度の高い内館牧子氏の起用によりバブリンシティの成果が大きかった。春からのミュージカルのチケットの期待にもつながり、昨年度に比べて早期のチケット予約につながっている。県民へ募集した秋田県民アンケートの700人の回答は、ミュージカル化にあたって新たに生まれる歌詞や脚本に生かされるなど、創作・プロモーション双方に効果を得ることができた。内容的にも、「今回はじめて観劇しました。私自身も役者をしていて将来はミュージカル俳優として大きな舞台に立ちたいと思って、今活動しています。出身は秋田でいつか秋田に自分の活動を還元できるように頑張ろうと思いました!ありがとうございます。」「(千葉県20代)など、秋田県への想いを深めるきっかけとなった感想が多くあった。なお第2部のわらび劇場開場50年を記念した名場面集では「21歳の時、精神的に病み、母につられてこちらで演劇を見ました。感動して泣いて立ち直れ、今や自分の子どもつれて再びみにこれてよかった。かわらず感動しました。ありがとう。」「(公-04 40代 女性)「私が一番最初に観たのは、小学生の時、男鹿の於仁丸でした。当時母に連れられて何回も観て、曲を歌えるくらい好きでした。30年くらい経っても、いまだにメロディを覚えていたのですが、今回久しぶりに歌っていただけで、涙が止まりませんでした。当時の気持ちに戻れました。」「(公-04 秋田県30代)などの感想を寄せていただき、時代を経ても多くの方々心にあり続ける舞台芸術の力を改めて実感した。

●公-05の公演の後には脚本・演出のマキノノゾミさんによるアフタートークを開催した。マキノさんは「とにかくわらび座がこの地にあるという事をずっと続けてほしいと思います。その存在自体が日本の文化、演劇界においてとても重要です。その灯(ともしび)のような存在を消さないよう皆さんお願いします。』とお話しくださった。東京一極集中と言われますが、演劇は完璧に東京一極集中であり、わらび座がこの地であり続ける価値について力強く地域の皆様にお話し下さった。劇場・劇団一同が改めて自分たちの価値を認識する機会にもなった。お客様からは感想に「感情が忙しかったです。笑って、心が痛くてたいへんでした。元医療従事者ですが、戻ろうかと気が狂うくらいに響きました。リアルでした。苦悩が。」「(40代秋田県)「さとちゃんが娘と重なることが多くて、生で観られることをずっと楽しみにしていました。来週から入院する娘【※彰夫さん大好き過ぎる】ですが、「明日をしっかりと生きる力」をもらえました。」「(40代秋田県)などと寄せられた。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・海外からの創客(モニターツアー受け入れ数)	海外モニターツアーの受け入れ数 1 件以上	海外モニターツアーの受け入れ数 4 件	・インバウンドにも対応できるノンバーバルステージである事業②は、秋田県観光連盟、仙北市農山村体験推進協議会による台湾のメディアやインフルエンサー、エアライン、旅行会社などのモニターツアーが4回29人訪れ、手応えを得た。2025年度の週末常設公演の情報公開後は台湾の旅行会社の団体予約が入り実施が進んでいる。15分ほどの体験型のパフォーマンスとお食事のセットなど劇場空間を活用した取り組みも含むと、チャーター便(秋田)を使った低価格団体旅行、定期運航便(仙台)をつかったテーマ性の高い周遊旅行など2社より、6月時点で9回253名の実施・予約のほか、検討の問い合わせをいただいている。地域の文化資源を生かしたインバウンドに対応した劇場コンテンツ創出の成果を得ることができた。また、台湾の人気番組のロケにて役者との交流も含む番組が放映されるなど今後の展開に期待を感じられる取り組みとなった。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

●秋田県観光連盟、仙北市農山村体験推進協議会による台湾のメディアやインフルエンサー、エアライン、旅行会社などのモニターツアーが4回29人訪れ、手応えを得た。皆興味津々で熱心にカメラを片手に役者のパフォーマンスを撮影したり、太鼓を叩いている姿をビデオに収めていた。舞台の終了後には役者たちと、太鼓のばちや提灯、ミニ竿燈などとともに記念撮影を楽しんでされていた。2025年のツアー予約をいただくきっかけとなった。

●仙北市からの依頼で「高度外国人材などのモニター調査の市内視察」でシアターエデュケーションを実施。インド、バングラディシュ、ウクライナ、フィリピンなど様々なバックグラウンドの皆さんが参加した。

●仙北市は2025年9月以降にインターナショナルスクールの誘致が決定している。1月22日にはインターナショナルスクールの誘致関係者に踊り体験のワークショップを実施した。「自然の中のアクティビティーが楽しめ、劇団わらび座で文化的な体験ができることに魅力を感じた」と報道された。

●ドイツのクルーズ船AIDAの現地ツアーがあきた芸術村を訪れることが決まった。2025/4/12に実際に訪れた。今回は温泉と田沢湖ビールのみであったが、2027年の予約を伝統芸能ステージも含む形で予約をいただいた。

●台湾の人気番組《老少女奇遇記》は、台湾の実力派女優・楊貴媚が総製作・共同ホストを務め、鍾欣凌・嚴藝文らと女同士の“旅×成長”を描く実境リアリティ番組。あきた芸術村に宿泊し撮影が行われ、ベテラン女優達との交流が撮影された。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点
・（文化拠点）地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・（地域連携）地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・（児童生徒への機会提供）次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス（貸館事業）の向上 ※ ・自由設定の観点（任意）

※ ホール利用サービス（貸館事業）を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標（値）、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標（値）	実績（値）	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
・わらび劇場、小劇場のこども鑑賞者数（当該施設で実施した事業のこども参加数、鑑賞数をカウントする） ・秋田県内の地域文化資源取り上げ数（秋田県内の民俗芸能を事業に取り入れた数を測定） ・芸術創造への市民参加者数（脚本アイデア募集キャンペーンの実施） ・県外からの一般来場者数（アンケート回答者から算出した県外一般来場者数の増加率）	・わらび劇場、小劇場のこども鑑賞者数 9,500名 ・秋田県内の地域文化資源取り上げ数 6種類以上 ・脚本へのアイデア募集の参加者数 100件以上 ・アンケート回答者から算出した県外一般来場者数 2%増加	・わらび劇場、小劇場のこども鑑賞者数 9,829名 ・秋田県内の地域文化資源取り上げ数 10種類 ・脚本へのアイデア募集の参加者数 781件 ・アンケート回答者から算出した県外一般来場者数は昨年の3040人に対して4227人で39%の増加（エビデンス資料4）	・修学旅行やファミリーでの若年層の観劇の機会の創出に努め、目標の9500人を達成することができた。特に公-02、公-03については、一般来場者においても10歳未満～30代の割合が全体の30%を占めることができたのは、当劇場が課題として掲げている、個人・ファミリー向けのプロモーションによる新規顧客の獲得の成果として評価している。 ・公-01においては、秋田音頭、秋田大黒舞、本荘追分、公-02においては、秋田の竿燈祭り、角館の飾山囃子、ぼんでん、男鹿のナマハゲ、番楽（唐臼舞）、こっから舞、西馬音内盆踊りの10種類を作品創作に用い目標を達成できた。重無形民俗文化財が日本で1番の登録数を誇る秋田の魅力発信に貢献できた。両事業では地元芸能団体の出演も実施し、お客様から感動の声を多くいただき、担い手の人々が地域の文化に誇りを持ってもらう機会となった。 ・公-04で実施した、ミュージカル「秋田は何もない」への脚本へのアイデア募集を兼ねた、秋田県民アンケートは現在781件の回答を得た。これは目標の100件を大きく上回ることができ、市民の関心意欲の醸成に寄与したと評価している。特に「秋田は何もない」という県民の口癖がでてしまう理由や秋田の魅力や不満などを収集することができた。ここから、2025年度のミュージカル上演に当たっては、秋田県民が秋田県への肯定的な感情をもつ事に取り組む「県民肯定感向上委員会」などのイベントも生まれ、より地域への誇りについて考える機会の創出につなげることができた。 ・公演事業におけるアンケート回答者から算出した県外一般来場者数は昨年の3040人から今年の4226人で目標の2%増を大きく上回る、39%の増加となった。これは補助対象外事業であるミュージカル「ジャングル大帝レオ」のファミリー層の新規観劇者の増加の影響が大きい。特にプロモーションを強化した岩手県盛岡市からの伸び率が大きい。盛岡市民へのSNS広告や折込チラシなどのプロモーション展開による成果といえる。今後はより関係性を深め交流人口の促進に努めたい。また、首都圏からも一定の来場があるが、首都圏でのプロモーションのノウハウの獲得はまだまだこれからである。ツアー公演事業との連携、SN広告展開など実現できることの効果の最大化、新たな取り組みへの挑戦を進め、今後実践をする中でノウハウを獲得していきたい。また県外のわらび座の会の会員増やし、当劇場を目的とした秋田県への旅行をしてもらえるように、ツアー公演での取り組みの工夫をしていきたい。一方で、秋田県を訪れている観光客への情報提供の接点を増やす工夫をし、立ち寄り観光客の取り込みにもアプローチを強めたい。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

●教育旅行の受け入れの取り組みは約50年にわたって継続している。1977年より続く東京都の和光中学校は今年はコロナ禍で一度中止になった関係で2学年が2陣にわたって5泊6日であきた芸術村を訪れた。3日～5日めは農家体験へ行くがそのコーディネートもわらび座が務める。コロナ禍の中止をはさんでも秋田を選ぶ理由は生徒からの「秋田の学習旅行をなくしたら絶対ダメだからね」と言って卒業していく生徒たちの声だったという。また札幌や仙台、秋田県内を含む約7790人の子どもたちもわらび劇場で観劇をした。恒例の役者による観劇後のソーラン節の踊り体験教室は5010人の子どもたちが参加し、感動の交流が続いた。子どもたちから送られてくる感想には「本当に一生の思い出になりました！！」「一人一人を見ていただけて嬉しかったです」「クラス全員で丸となり練習に取り組むきっかけをいただいて、クラスはさらに仲良く、明るく、元気になりました」「大人になっても絶対に忘れない」と本当にたくさんの感謝の声をいただく。実際に今年の来場者アンケートには「今回は中学生のときに宿泊研修でわらび座さんの「アデルイ」を観劇して以来の訪問でした。観劇後に私もこんな風に感動を与えることが出来るようにになりたいと思い、演劇部のある高校に進学することを決意しました。今回の観劇で中学生のときにした経験を思い出し、明るく前向きな気持ちになることが出来ました。わらび座さんの長年の活動のおかげで演劇の魅力に気づかせてくれたこと、感謝してもきれません。これからも長い歴史を紡いでいかれることを微力ながら応援しております。」「(公-04 20代 岩手県)「素晴らしい、とても感動しました。和光で、息子がお世話になりましたので今回初めて観にきました。または非観にきたいです。」「(公-04 50代 東京都)などと、教育旅行をきっかけに再び訪れたという感想も寄せられる。劇場のビジョンに掲げる「世界で最も帰ってきたくなる劇場」の実現を目指して今後も活動を続けたい。

●レジデントカンパニーわらび座は毎年地元の9月7日-9日の角館の祭りに囃子方として参加している。祭りの囃子手不足の状況の中、地域の祭りの担い手として重要な役割を果たしてきた。2024年9月7日～9日に開催されている角館のお祭りで、おやま囃子コンクール囃子部門の秋田県知事賞に「七日町丁内 わらび座」が初めて選ばれた。そして、2025年度より「角館のお祭り保存会」への加入についてお誘いを受け、加入することになった。地域とともに伝統の継承、魅力の発信に努めていきたい。

●祭ステージ「This is Akita !」には地元角館のお祭りの人形を作りつけ、2024年に100周年を迎えられた「広目屋」制作の荘厳な人形がやまづけをイメージした舞台美術の上に鎮座している。これは田沢湖角館観光協会のおつなぎで快く答えてくださった広目屋の皆様のご協力で実現し、2025年度には新たにロングラン上演のために人形を製作くださった。2024年度の初日公演には広目屋の皆様が20名近く関係者一同ご覧くださり喜びの声を届けてくださった。本物の迫力は舞台の質の向上の点においてもとても大きな力を発揮している。

●祭ステージ「This is Akita!」には多くの角館の祭りの手踊り団体が特別出演として参加してくださっている。ある日の本番にはお師匠さんの娘さんとその孫の親子共演がなかった。遠方からご親戚も駆けつけ、終演後の写真撮影会も名残惜しく続いた。小さな子供たちも終演後にお客様方から「とても上手だったよ」とお褒めの言葉をたくさんかけていただきとても照れくさそうであうれしうだった。

●わらび座との協働により、2024年青森県に2つのミュージカル劇団が生まれた。1つはむつ市の劇団「七色」もう一つは中泊町の劇団なかどまり「おむすび」。劇団「七色」はむつ市青年会議所65周年事業としてわらび座が市民ミュージカル「世界を一つに～柴五郎の生涯」(脚本・演出栗城宏)を制作したことがきっかけに、中泊町は町の合併20周年を記念してわらび座の協力のもと劇団を結成し3/23「笑顔それは未来」(脚本・演出渡辺哲)を上演した。地域で中心となったお2人は「みんな終わった後涙涙で、一人一人感想を出し合いましたが感動で声になりませんでした。この瞬間、町が一つになったと思いました。」「(中泊町佐藤さん)、「子どもが座長をやりましたが、その子供が苦労を思い起こし涙ながらに観客の皆さんにお礼の言葉を述べたとき、それを聞いて観客のなかで涙している人がいました。先日市長とも話してこれから演劇とか芸術の方に力を入れたい。今回のことで町が変わったと言われました。」「(むつ市藤井さん)と振り返った。中泊町、むつ市は共に出身の役者丸山と村中がわらび座で活躍し、むつ市は定期的に公共ホールが、中泊町も2023年には「青春するべ！」を招聘してくださっていた。公演の感動が人を変え、町を変えていけるのだと実感する機会となった。11月にはむつ市から劇団員の皆さん23名が来村し、観劇のほかバックステージツアーを開催し舞台の裏側についても学んだ。

●わらび劇場は2021年より4回目となる明桜高校吹奏楽部生演奏によるミュージカルを実施している。2024年はミュージカル「ジャングル大帝レオ」をお届けした。「わらび座の方は稽古の時でも役者だけでなくスタッフもみんなにフレンドリーに接して高校生を線導ってくれます。だから生徒たちが解放されていくんです。稽古内容が入っていく。」「(指揮・石崎先生)「わらび座の人と一緒に緒だと、素直に音楽が楽しいと思う」(部長佐々木さん)と。昨年には初の全国大会出場を果たし、2024年も2年連続で東北代表で全国大会へ進み、部員も増えているという。共演した卒業生が劇場を訪ねる様子もとてもうれしい。4度の実践は全国へも波及し、2025年3月には「ゴホン！ といえは」が仙台の聖ウルスラ学院英知高等学校と、東京公演を国本女子高等学校との生演奏公演も実現させることができた。

●秋田県の芸術文化団体との連携のひとつとして、伝統文化をテーマにしたイベント「あきた伝統文化親子体験フェスタ」の運営を担った。民俗芸能・伝統工芸・茶道・華道・伝統芸能などを1日で複数体験できるテーマパークを演出。役者たちが伝統文化コンシェルジュとして子どもたちと先生方をつなぐ役割を果たした。

●演劇手法を用いたコミュニケーション力の向上を目指すシアターエデュケーションのプログラムをアウトリーチや芸術村で開催している。今年度も約42件行った。協賛企業もただ協賛するだけでない、研修を通じた交流も生まれている。継続して新人研修を行っている秋田スズキの石黒社長は「今回で4回目です。舞台を見て、みんなで泊まってはしゃいで、繋がりが強くなっている。このパッケージは最高ですよ。協賛するあるいは寄付することによってそんなお金があるならもっと給料を上げてくれという人がいてもおかしくはない。しかし得た利益を自分たちで使うことはもちろんですが、社会的に価値があり必要としている人達に使っていただくことも大事なことです。お互い様、おかげ様という温かい心が今社内に育っていると思います」と話す。即興劇をつくるワークでは、秋田スズキでの感動の面接や、インターハイに出場した社員の実話、大海原へ冒険に出かけた船員の物語などが披露された。他にも継続している企業に地域の新聞社、秋田魁新報社もある。研修に取り入れることを提案した佐川社長は「最近の人たちは新聞記者を志す割にはコミュニケーション力がやや弱いと感じていました。表現力があり、元気いっぱいな座員と接することで、座学では身につかないスキルアップが図れるのではと期待しました。記者として聞きたいことを相手からどのように引き出せるかはとても大事なスキルです。」と話す。研修にきた社員からの感想にも、「わらび座の研修プログラムで新聞記者に求められる基礎的なスキルを身に着けることができました」「短い時間で演劇を組み立てるために意見交換をしあうコミュニケーションを実践する貴重な場だった」などの感想が寄せられた。

●地域連携の取り組みとしてフレンドリータウン協定を13市町村と結んでいる。取り組みの一環として、北秋田市では市役所職員向けのシアターエデュケーションを行ったほか、PRサポーターの役者の三重野葵が秋田内陸縦貫鉄道の応援社員として町のPRを務めた。三種町ではふるさとPR大使の川井田南も出演し総合体育館で「ひひ爺ちゃんとおくの旅」というファミリー作品を上演した。横手市や羽後町でも道の駅へ「ジャングル大帝レオ」のチームでかけていき公演のPRを兼ねてパフォーマンスを披露するなど様々な接点づくりに取り組んだ。

●クルーズ船の現地ツアーとして受け入れをしている。芸能ステージとお食事のセットで好評を得ており、2025年度は8回約1600人が訪れる。芸能ステージはThis is Akita ! の舞台美術を生かして実施できるようになり、より質の高い空間でパフォーマンスを提供できるようになった。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・来場者の世代分布(アンケート集計) ・舞台創造への市民参加分布(アンケート集計) ・アウトリーチの実施数	・10代～70代の7つの世代で各5%以上の実現 ・脚本へのアイデア募集への参加者の多様性 10代以下～70代以上の全世代からの応募 ・圏域箇所 50件以上	・10代5%、20代6%、30代5%、40代12%、50代15%、60代29%、70代20%の比率で各5%以上で回答を得た。 ・脚本へのアイデア募集への参加者の多様性 10代以下～80代以上の全世代からの回答の応募があった。 ・アウトリーチの実施 約121件	・学校団体観劇の来場を除く一般来場者においても、公-02「This is Akita!」、公-03「お正月特別公演」においては40代以下のアンケートの回答者の割合が47～48%と約半分を占め、課題としていた新たな世代のファンの獲得につながっている。一方で、公-04「秋田は何もない」リーディング公演は、60代以上がアンケート回答者の67%を占め、これまで当劇場が手掛けてきた脚本家内館牧子さんの脚本への既存ファンの期待に応える企画であり、プログラムの多様さを実現するうえで効果的だった。コロナ禍で60代以上の観劇が減っていた2022年と2023年と比較しても、2024年は50代以下の観劇が38%から46%へ増加している。コロナ以後の団体観劇から個人での観劇へのライフスタイルの変容に対応する取り組みの成果であり、継続してとりこんでいきたい。また、38都道府県の方から観劇のアンケートの回答を得た。幅広い地域世代の人々とより接点を持てるように取り組みたい。 ・脚本へのアイデア募集においても、10代以下から80代以上まですべての世代の声を集めることができた。60代～70代で約50%を占め、残りは他の世代からの回答を得られた。 ・レジデントカンパニーわらび座による、アウトリーチ公演、市民参加型の公演の指導などを約79か所、シアターエデュケーション(演劇的手法を用いた企業や子供たちに向けたコミュニケーションワークショップ)を約42件実施した。学校、支援学校、地域の祭り、高齢者施設、スポーツイベント、企業など多様なところであらゆる人々と実演芸術の接点を生み出すことができた。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

●公-02ではThis is Akita ! での仙北市内の高齢者施設モニター招待の取り組みを行った。想定以上に車いすでのご来場があるなど、対応を検証する機会となった。複数のスロープの設置や車いすで観劇するスペースの確保などの対応を行った。アンケートにも「客席参加がとても楽しく、ご高齢の方も喜んで参加されていたのが印象的でした。福祉施設さんやご年配の方のサークルにもお話ししてあげたいと思いました。」(60代 秋田県)「①若い娘さん達のパフォーマンスがとても動きが良く、美人さんに素敵でした。生まれてはじめて太鼓を叩き、体が燃えてきて元気を貰いました。」(60代 秋田県)など、子どものみならず高齢者のみなさんも参加型は楽しんでいただいていることが伝わってきた。

●50周年を迎える劇場は様々なハード面でのアクセシビリティの不十分さを抱えているが、できるかぎりのソフト面の対応は心掛けている。アンケートでも「障害者施設のグループ旅行として利用させていただきました。たまたま観劇中、利用者の方が体調不調となり、ロビーのソファで休ませていただきました。枕や毛布をお借りしてありがとうございました。対応ありがたかったです。」(秋田県60代)「天下のわらび座障害者にも優しい」(公-02 秋田県70代)「今日は楽しませていただきありがとうございます。〇〇のためにいろいろ気使いただき本当にありがとうございます。認知症の〇〇は音楽踊り大好きです。」などのコメントをいただいた。

●シアターエデュケーションのワークショップの実践を重ねているが、ワークショップをきっかけに劇場へ足を運ぶ方も増えている。「私は県外の学校に勤務していますが、今年も、2年前も演技指導でお世話になりました。表現力の向上のために、ご指導いただいたことを忘れず頑張らせます。ありがとうございました。」などの感想が寄せられた。

●公-02は45分というコンパクトな上演時間で太鼓で参加できる点からもファミリーでの観劇が多い。また、会場がホテル内の一角をシアターにしていることから、観劇を目的としない観光や宿泊を目的としたお客様が初めて舞台に触れていただくきっかけとしても有効である。お客様からも、「お客さんが超満員で嬉しかった～。子供たちが開演前からノリノリでしたね。この会場は宿泊のお客さまも来やすいですね。夜にまたみます。」(50代茨城県)などの感想をいただいた。

●芸術村のおもてなしは劇場スタッフだけではない。庭師からのエピソードを紹介する。「大阪からの御客様、ホテル前の樹木手入れをしていた時、話しかけられ、自身も役者を経て40年近くの前参スタッフだから、わらび劇場から、74年のわらび座の歴史と建物、敷地の説明をした。次は庭師の貴方に会いに来ますわ、それからジャングル大帝レオ観に又来ますと出発された。本当にジャングル大帝レオを観に泊りがけで来て下さった。長く働くのと亡くなったリ辞められたりスタッフは変わるけれど、庭に自分が居る、わらび劇場の在る庭造りを続けている事は御客様にも希望になるのだと感じた。」芸術村・地域全体でまた来たいと思ってもらえる出会いを生み出していきたい。

●わらび座と秋田大学がタッグを組み歌い踊り演じるミュージカルで身体機能・認知機能がどう変化するかを検証する地域貢献プログラムとして県内2か所でのシニアミュージカルの取り組みをしている。仙北市がその1つで、「みんなのふるさと物語 in 秋田」を3/16(日)に上演した。65歳から83歳までのキャストによるシニアミュージカル劇団ひこばえ3期生の修了公演は、予想していたお客様の人数を遥かに上回り用意した椅子が足りず10分前に椅子を追加、それでも足りず立ち見が出るほど、約200名のお客様で大盛況大成功となりました。

お客様の感想には「全員、とっても伸び伸びと輝いていて、引き込まれましたー。」「昨年よりさらにバージョンアップして、シニアパワーを感じました。」「歌あり、ダンスあり、太鼓あり。最後は全員が豊年太鼓を真剣に叩いて会場の人達も応援して、ひとつになりました。」「地元のみなさんのこの農村で生きてきた生命力をととても感じて、素晴らしいと思いました。」「最後の合唱駒ヶ岳エレジーでは、涙が出ました!」。社会的フレイイル克服の鍵となり秋田モデルとして期待が寄せられている。本事業の研究について秋田大学医学部の小玉鮎人さんは、「記憶力判断力の低下は内面的なものが大きい、その状態が引き金になって認知症になる傾向がある。このミュージカルの取り組みではみなさんが意欲的になり、交流するのが楽しみだということもあり、そのような心の在り方がいろいろなところに影響として表れている。薬以外でも認知症予防とか改善ができないかと考えていたところです。ミュージカルを取り入れた認知症予防というのは世界的にもなかなか見つけれません。世界に先駆けた取り組みです。アメリカの学会誌でも掲載されました」と事業の成果に期待を寄せている。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	入場料収入の向上の他、スポンサー協賛の拡大、各種助成金の積極的な活用に取り組んでいる。	レジデントカンパニーの事業に対する協賛企業数	227	2023年度191件に対して36件増、企業数と金額としては目標を達成している。今後は大型スポンサーの獲得も目指したい。		
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	個人顧客層の拡大に課題感をもっており、プロモーション・広報宣伝の人材育成、PDCAに基づいた広報活動の実施につとめている。	わらび座オンラインチケット数の券売数を昨年販売数500枚増	928枚⇒2342枚 1414枚増	顧客ターゲット層にあったプロモーションによってのPDCAは回せている点、新規顧客開拓に力を入れて、オンラインチケットの販売が伸びているのは評価できる。わらび座の会の拡充施策にはまだまだ改善の余地がある		
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	秋田県秋田市の基幹劇場「あきた芸術劇場ミルハス」と人材交流、共催事業等を行っている。	共催事業数2本以上	2本	あきた芸術劇場との連携は出向者を中心に、情報交換、連携をすることで、効果的な運営ができた。		
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	定期的な理事会の開催によって、現状の報告と意見交換を行うことで、財源の確保を行っている。			定期的な理事会の開催によって、現状の報告と意見交換を行うことで、財源の確保ができた。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	芸術監督人材、アートマネジメント人材を選任、配置をしている。			芸術監督を設置することによって、劇場の特色である民俗芸能における役割を打ち出すことが出来ている。		
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	劇場支配人の他、スポンサーシップ事業実務者を配置している。			劇場支配人の他、スポンサーシップ事業実務者を設置することで、一定の財源確保ができている。		
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	レジデントカンパニーを置き、人材確保に努めている。			レジデントカンパニーによる、専門人材の確保、外部との連携によって専門人材の技術向上に努めている。		
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	専門性を元に組織編制を行っている。			専門性を元に組織編制を行っている。劇場支配人、副支配人(プロデューサー)、事業運営課、教育事業課、事業企画課、舞台創造課の4課に役割分担されている。		
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	若年層の積極的な採用につとめる他、年間を通して求人・採用活動を行っている。			若年層の積極的な採用のため、専門学校との提携によって、新しい人材確保に努める他、年間を通して、求人・採用活動を行っている。		
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	管理職層の男女比は約6:4で、女性の管理職登用を積極的に行っている。			管理職層の男女比は約6:4で、女性の管理職登用を積極的に行っている。		
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	社内に保育所を有し、社員の育児環境をサポートしている。			事業所内保育所を有し、従業員の育児環境をサポートしている。子どもの数が減っている現状に合わせた支援制度の導入も検討が必要。		
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	情報セキュリティ強化のため、専門人材の配置を行った。			情報セキュリティ強化のため、専門人材の配置を行った。グーグルワークプレイスシステムを導入しセキュリティ強化、専門人材による、定期的な講習、注意喚起を行っている。		
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	衛生委員会を設置し、全社員を対象にした年に1回のハラスメント研修を実施している。			衛生委員会を設置し、月1回の会議によって課題の把握、改善措置を講じることが出来た。全従業員を対象にした年に1回のハラスメント研修を実施している。		
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	実施している。			実施している。		

4. 総評

・ 団体の自己評価

企画性・創造性の高い多様な事業の展開、広報プロモーションを通じた団体顧客のみならず、個人顧客の拡大を目標に取り組んだ。教育旅行を除く一般来場者の50代以下の割合が全体の38%から46%へ増加（一般来場者アンケート2022-23対比）、わらび座オンラインチケットの販売数が928枚⇒2342枚と2倍以上に増加するなど、新しい世代・個人顧客の増加には一定の成果も見え始めおり、これはファミリー層をターゲットとした作品創出・広報の連携による成果といえる。一方で後一步で目標人数に到達しない事業が複数あったことは課題である。大きな要因としてはコロナ禍以降の制作工程の遅れからくるプロモーションの遅れが効果を最大化できていないためと考えられる。2025年度はこの反省を生かし2年先・3年先を見据えた計画準備に向け企画制作ミーティングを増やしチーム力の強化・新たな体制構築に努めている。以下は各評価項目ごとに特筆すべき成果や課題について記す。

◆(創造性・企画性)3つの賞を受賞し、強みを再認識

2024年は3つの賞を受賞し創造性・企画性において大きな評価と自信を獲得することができた。まず1つめは、同劇場自主制作作品の2作品が「**2024 All Aboutミュージカル・アワード**」にて**アンサンブル賞**を受賞した。受賞した1作品は事業⑥で上演したミュージカル『ジャングル大帝レオ』、2作品目が事業①の『青春するべ！～由利高校民謡部ストーリー～』である。レジデントカンパニーわらび座の「個々のスキルのみならず、ステージ上にみなぎる“互いへの信頼感”が魅力」と評価を得た。「出演者たちが和太鼓とアフリカン・リズムを掛け合わせ、息の合った演奏と踊りで観客を魅了」「若手俳優4人が複数の役を担当。部活仲間に父親、祖母……と達者に演じ分ける彼らの間にも、阿吽(あうん)の呼吸が見て取れます。彼ら自身の“絆”が作品内容とリンクし、学校鑑賞で初めて観劇体験をした学生たちからも、感動の声が聞かれる舞台となりました。」と、これまで培ってきた民俗伝統をベースとする新たな創作や今日のカンパニーを担う若手俳優たちへの評価が受賞理由として挙げられた。(出典: All About MUSICAL AWARDS 2024

<https://allabout.co.jp/gm/gc/511741/#8>)同劇場がビジョンとして掲げる日本・秋田の文化資源を生かした高質な舞台芸術の創造への評価を得たこと、また、「いのちに芸術を。生活に感動を」というミッションの実現のためには創作のみならず事業活動においてのアンサンブル力は必須であり、その点が評価されたことはとても自信となった。今後も当劇場の強みと自己認識を強め向上に努めたい。また2つめは、日本舞台美術家協会の**第2回伊藤薫朔記念賞**でわらび座大道具の宮本博司が「**特別賞**」を受賞した。選定理由には「雪深い仙北の地、東日本大震災、コロナによる上演動員等の演劇環境の大変厳しい中、大道具製作部門の棟梁として数多くの道具製作・背景表現を製作指導し、若手の育成を担っておられる。舞台装置の完成度を高める努力に敬意を抱くと同時に、地域の舞台創作において頼もしい人故に特別賞を贈るに相応しい人材と考える」とある。(出典:一般社団法人日本舞台美術家協会HP <https://jatdt.or.jp/%E4%BC%8A%E8%97%A4%E7%86%B9%E6%9C%94%E8%A8%98%E5%BF%B5%E8%B3%9E-3/>)25年にわたって数多くの作品の美術製作を担ってきており、今回の助成対象事業においても製作を指揮したほか事業⑥「ゴホン！ といえば」では美術プランナーを担った。さらには、事業②③⑥の照明を手掛けた三重野美由紀が24年度上演作品に贈られる**日本照明家協会優秀賞**をミュージカル「ジャングル大帝レオ」で受賞した。三重野は21年度「結命花」で同会新人賞、22年度「ゴホン！ といえば」で奨励賞、そして24年度「ジャングル大帝レオ」で優秀賞と、応募3作品連続受賞という快挙となった。これらの評価は地方における日本トップレベルの創作を実現する礎としてレジデントカンパニーの存在の重要性、創造を支える舞台スタッフや創作スタッフや俳優の存在の貴重性を示唆している。50周年を迎えた劇場はハード面の維持管理には大きなコストがかかる。地方での創造発信において、レジデントカンパニーの存在が当劇場の最大の強みであり、その維持継承に向け人材育成、創作の機会の創出、環境の整備のために、安定経営に向け、地域課題の解決に寄与する事業活動を通じて、ファンの獲得・地域やスポンサー企業等のステークホルダーとの関係の深化に努めていく。また、事業⑤で脚本・演出を依頼したマキノノゾミ氏は紫綬褒章を受賞された。レジデントカンパニーにとって、優れたクリエイターとの共創は作品の質を高め、人材を育成する重要な機会であり、今後も力を入れていきたい。なお、事業④のミュージカル化に当たってはマキノ氏が上演台本・演出を手掛ける。

◆(国際性)モニターツアーの受け入れから、新たなフェーズへ

次に、国際性の点においては事業②が成果を上げることができた。企画段階よりノンバーバルステージとして、言葉のボーダーを超え楽しめるよう制作し、太鼓の参加型の演出、秋田の文化資源の活用に重点を置いている。台湾のメディアやインフルエンサー、エアライン、旅行会社などのモニターツアーが4回29人訪れこの手応えから、2025年度は週末定例化することを決定し、結果2025年度6月時点で実際のツアーが9回250名の獲得につながった。台湾からの視察の招聘をする観光連盟との連携により成果を生み出せたことは大変心強く感じている。同作のシリーズ作品の祭シアター「HANA」は2025年度末には東京公演が予定されるなどさらなるコンテンツの磨き上げ、発信力強化の機会も準備をすすめている。今後は個人観光客の獲得に向けても施策を実行していきたい。

◆(地域文化拠点機能・アクセシビリティ)文化資源の活用、子どもたちの情操涵養への貢献など持続的な成果が顕著

・地域の文化拠点機能として重視している、日本・秋田の文化資源の活用・創造発信の点においては多くの成果があった。事業①「青春するべ！」は、総合文化祭での受賞実績のある県内外の郷土芸能部など5団体、93名が出演。事業②においても地元飾山囃子の手踊り団体9団体が10公演に出演した。事業③や普及啓発事業も含めると、23種類以上の民俗芸能を取り上げ、20団体以上の発表の場を創出した。これらの取り組みは当劇場の特色を示し日本・秋田の文化の魅力を発信し、担い手のエンパワーメントにもつなげることができた。補助対象外事業では「あきた伝統文化親子体験フェスタ」「あきた無形民俗文化財万博」を秋田県や県内の芸術文化団体等からの委託により企画運営を担うなど、秋田県の文化の魅力発信の制作・演出力に期待を寄せられ役割を果たしている。

・市民の参画という点では、事業④ではリーディング公演による創作過程の共有や秋田県民アンケートの募集、事業⑥では観客参加の歌の歌唱やマキノ氏のトークショーなど市民が参加して取り組む場や創作工程に触れる場づくりも公演事業を通じても積極的に行った。

・教育並びに交流人口の促進においても多くの成果があった。県内2918人・県外4872人の修学旅行生7790人が観劇をし、5010人がレジデントカンパニーの役者がインストラクターを務める踊り体験教室に参加した。アウトリーチ・企業向けの研修等は約121件行うことができた。これらは補助対象外事業であるが、アーティストを専属で抱えている劇場の強みとして実演芸術との出会いの場として今後も継続していきたい。「青春するべ！」「ゴホン！ といえば」「北斎マンガ」3作品は全国でツアー上演で136回公演をし、82,255人が来場し、このうち7,2724人は子どもたちが芸術鑑賞行事として鑑賞した。これらの県外の人々との接点は文化の魅力発信の機会でもあり、劇場への来場を通じた交流人口・関係人口の獲得、ひいては劇場・劇団への就職による移住の促進につながるチャンスでもある。地域の課題解決にも貢献できるよう、より深い感動・機会の創出に向け取り組んでいく。

なお、事業①と事業④については夏休み・お正月の時期の公演設定により、他事業に比べて県外客の比率が高かった点で有効性が認められる。事業④は昨年度の同時期の事業に比べて来場者が456人から、864人と大きく増え、目標を達成することができた。

なお、アクセシビリティにおいては2025年度夏に初演するイー・ハトーブシアター「真昼の星めぐり」にてヘラルボニーとの連携により知的障害のある作家のアートを美術に起用するほか、様々なアクセシビリティの拡充のため、株式会社precogと連携がはじまり、研修を受けるなど専門の知見を学ぶ機会を得ることができた。ツアー公演での実践が先行しているが、今後劇場運営にも応用していきたい。

・ 所見

